



選挙集会を見に行く

木之内 秀彦*

選挙というものは、人を妙に興奮させる。3月の国会議員選挙を控え選挙運動真っ盛りのタイを訪れた時も、フィリピン大統領選ほどの過熱ぶりにはさすがにみられなかったが、それでも選挙期間中、選挙がらみの殺人傷害事件の報道が連日、新聞紙面を賑わせていた。候補者を巡る口論で思わずカッとなった兄が、弟をいきなり銃殺した例や、表向きは交通事故として処理されたものの、実際には事故を装った謀殺ではないかとささやかれている或る候補者の事故死の例もあった。タイの選挙もなかなか大変である。

さて投票日前日の夕方、サナム・ルアン（王宮前広場）で中堅政党の一つ、プラチャコン・タイ党（タイ市民党）の集会があると聞き、見物に出かけてみた。周知のことと思うが、サナム・ルアンは以前から大規模な政治集会のメッカである。今回の選挙でも終盤になって各政党が毎日のようにここで集会を開いていた。もっともここに繰り出したのは、政治学をかじる端くれとしての興味というよりは、殆ど単なる野次馬根性からである。タイでは日本のように政党党首がマイクロバスの上から街頭演説するといった光景にはまずお目にかかれないので、こうした集会は庶民が有力政治家の顔を直かに拝める数少ない機会の一つと言ってよい。

会場の公園に近づくと周辺の道路まで人で溢れている。そして集まった聴衆（と野次馬）を相手にちゃっかり商売をする物売り、屋台までひしめきあっている。さながら縁日の賑わいだと思いつつ歩いていると、プラチャコン・タイ党の運動員がパンフレットを配布してくれた。公約と党首サマック氏の顔写真が掲載されているのはよいとして、同氏の妙にわざとらしい執務姿や、氏が自分の美しい娘と肩を並べている写真、更に夫人との仲睦まじいスナップ写真までご丁寧に印刷してあるのはご愛敬だった。もっともタイでは政党の人

気が、党首の指導力、カリスマ性は無論のこと、経歴、毛並のよさ、集金能力といったごくごく個人的な資質にも大きく左右されると聞くので、このように家庭の円満さも含めた全人格的アピールに努めるのも案外選挙の要諦なのかもしれない。

会場となっている公園のほぼ中央に大きな野外ステージが設置され、その壇上後方に首都圏選挙区に立候補している同党候補者が花の首飾りを下げてズラリと座っている。しかし首都での自党の劣勢を自覚してか、全員顔色が冴えない。壇上中央部ではサマック党首が演説しているのだが、まるで原稿でも朗読しているような淡々と抑制された調子である。他党の集会を見ていないので何とも言えないが、とにかくこれを見る限り、こぶしを振り上げて最後の連呼をするといった日本の選挙風景とは程遠い。

ステージの前には大勢の聴衆が地面に座り込んで聞き入り、それを取り巻く形で立見の群衆が耳を傾けていた。その人混みをかき分けながら、甲子園のカチ割売りよろしく、ジュースやら何やらを売る売子が往来して行く。そうした群衆の外側では、完全に行楽気分の家族連れや仲間同士のグループが芝生にゴザを広げ、演説など耳に入らぬ様子で食べ物をつついている。臨時の貸しゴザ屋もある。子供達は凧上げや風船遊びに夢中だ。

しかしのどかな光景ばかりではない。周辺の交通整理をする警官に加え、会場の一角に仮設された軍の詰所には数人の警備兵も配備され、何丁ものカービン銃を光らせてにらみをきかせていた。

選挙結果については日本でも報道されていることと思うのでここでは触れない。ちなみに、集会をひやかしに行ったよしみで多少親近感めいたものも覚えたプラチャコン・タイ党は、大方の予想通り惨敗を喫した。サマック党首は責任を痛感してか、惨敗が判明した時点からしばらくどこかに雲隠れしてしまった。

（京都大学東南アジア研究センター助手）

* Hidehiko Kinouchi, The Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University